ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	梅北　直昭

主な担当科目	作曲・編曲法①,作曲・編曲法Ⅰ,鍵盤ソルフェージュ②,スコアリーディングⅡ,聴音・視唱ソルフェージュ①Ⅰ,ミュージックセオリー（中級）,ポピュラー作曲・編曲法④,実技個人レッスン[作曲・エレクトロニクス実技①②③④,音楽芸術表現実技（作曲）①],実技グループレッスン[作曲Ⅱ①,作曲Ⅱ②,作曲Ⅱ④]
シラバス	次ページをご参照ください

2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	2022年度は、コロナ禍の中で入学した学生が3年生となった年度である。通常の大学生生活に戻りつつある中で、ICTを活用できる環境も整い、教育の手法にも変化が訪れている。引き続き普遍的で大切なものは残しつつ、「変革」が必要なものに対して積極的な対応が必要であると考える。自らの力で回答を導き出すことができる人材育成に寄与したい。
2022年の教育に関する自己評価	新たな授業の形として、本年度より新たに「メディア授業」を担当し、学生の新しい学びの形に貢献した。また、未入国の留学生に対して「ハイブリッド型」の授業を実施し、学生の学びの継続に寄与した。「ポピュラー作曲・編曲法④」の授業では、Stringsのレコーディングを実施するなどし、学生の学びの機会を提供した。今後、更なる学生の学修の手助けが実現できるよう工夫を重ねたい。

2022年のFD活動に関する自己評価	年間テーマである「コロナ禍を経た教育方法・教育効果の検証」をもとに、メディア授業の実施や、ICTを活用した授業展開などを工夫した。Teams を活用した授業展開や、授業外学修のための教材提供などが挙げられる。こういった自らが主体となって学ぶことのできる環境の提供により、学生の音楽力の向上に寄与できたと考える。
授業改善のために取り入れた研修内容	iPadなどのICTデバイスを使って学修する機会が増えたことに伴い、ソルフェージュ学内組織FD研修会で実施されたICTを活用した授業の実践例と活用法を取り入れた。学生の思考を理解し、学生と同じ視点で考えることで、より有効な教育手法の確立へとつながると考える。

科目名－クラス名

作曲・編曲法Ⅰ　A

曜日時限

月 1時限

担当教員

梅北　直昭

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	3～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	40	40	20	100

教育到達目標と概要

作曲・編曲の方法を学ぶ。それは、適切な楽譜の書き方を学ぶということでもある。また、作曲・編曲という作業は、実際に音にし、享受することで完結する。ゆえに各自が作曲・編曲した作品を音にし、ディスカッションする機会を設ける。同時に、教員採用試験や他の音楽試験の、作曲・編曲に関する問題に対応できる力を身につけることも目標とする。

学修成果

作曲・編曲に関する基礎力が身につく。適切な楽譜が書けるようになる。作曲・編曲に関する試験問題等に対応できる力が身につく。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション（1）授業の進行や、評価方法の説明

第2回　編曲作品の解説と概要（1）「トランスクリプション（編成の移し替え）」

第3回　編曲作品の解説と概要（2）「トランスクリプション（オーケストレーション）」

第4回　編曲課題の作成と音楽理論「楽器法」導入①（楽器総論）

第5回　編曲課題の作成と音楽理論「楽器法」導入②（実例からの考察）

第6回　編曲課題の作成と音楽理論「楽器法」基礎①（木管・金管・弦楽器）

第7回　編曲課題の作成と音楽理論「楽器法」基礎②（実例からの考察）

第8回　編曲作品の解説と概要（3）「アレンジメント（自由な編曲）」

第9回　編曲作品の解説と概要（4）「アレンジメント（パラフレーズ）」

第10回　編曲課題の作成と音楽理論「楽器法」応用①（奏法について）

第11回　編曲課題の作成と音楽理論「楽器法」応用②（授業内小テストを含む）

第12回　編曲課題の仕上げ（1）（楽譜としてまとめる）

第13回　編曲課題の仕上げ（2）（演奏者との打ち合わせ、実演に向けての注意点）

第14回　編曲課題の実演（成果発表）

第15回　編曲課題（成果発表）についてのディスカッション、まとめ

第16回　オリエンテーション（2）前期の復習、後期課題の説明

第17回　作曲作品の解説と概要（1）「ピアノ曲」

第18回　作曲作品の解説と概要（2）「歌曲」

第19回　作曲課題の作成と音楽理論「形式」導入①（2部・3部形式）

第20回　作曲課題の作成と音楽理論「形式」導入②（実例からの考察）

第21回　作曲課題の作成と音楽理論「形式」基礎①（ロンド形式・変奏曲）

第22回　作曲課題の作成と音楽理論「形式」基礎②（実例からの考察）

第23回　作曲作品の解説と概要（3）「室内楽」

第24回　作曲作品の解説と概要（4）「管弦楽」

第25回　作曲課題の作成と音楽理論「形式」応用①（ソナタ形式）

第26回　作曲課題の作成と音楽理論「形式」応用②（授業内小テストを含む）

第27回　作曲課題の仕上げ（1）（楽譜としてまとめる）

第28回　作曲課題の仕上げ（2）（演奏者との打ち合わせ、実演に向けての注意点）

第29回　作曲課題の実演（成果発表）

第30回　作曲課題（成果発表）についてのディスカッション、まとめ

履修上の注意

課題作成に伴い、予習・復習の反復学修をしっかり行うこと。五線紙と筆記用具は必ず持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

予習・復習および課題作成などを60分程度行うこと。取り組んだ課題のフィードバックは各授業回で行う。

教科書・参考書

必要に応じて紹介、配付する。

科目名－クラス名

作曲・編曲法Ⅰ　B

曜日時限

月 2時限

担当教員

梅北　直昭

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	3～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	40	40	20	100

教育到達目標と概要

作曲・編曲の方法を学ぶ。それは、適切な楽譜の書き方を学ぶということでもある。また、作曲・編曲という作業は、実際に音にし、享受することで完結する。ゆえに各自が作曲・編曲した作品を音にし、ディスカッションする機会を設ける。同時に、教員採用試験や他の音楽試験の、作曲・編曲に関する問題に対応できる力を身につけることも目標とする。

学修成果

作曲・編曲に関する基礎力が身につく。適切な楽譜が書けるようになる。作曲・編曲に関する試験問題等に対応できる力が身につく。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション（1）授業の進行や、評価方法の説明

第2回　編曲作品の解説と概要（1）「トランスクリプション（編成の移し替え）」

第3回　編曲作品の解説と概要（2）「トランスクリプション（オーケストレーション）」

第4回　編曲課題の作成と音楽理論「楽器法」導入①（楽器総論）

第5回　編曲課題の作成と音楽理論「楽器法」導入②（実例からの考察）

第6回　編曲課題の作成と音楽理論「楽器法」基礎①（木管・金管・弦楽器）

第7回　編曲課題の作成と音楽理論「楽器法」基礎②（実例からの考察）

第8回　編曲作品の解説と概要（3）「アレンジメント（自由な編曲）」

第9回　編曲作品の解説と概要（4）「アレンジメント（パラフレーズ）」

第10回　編曲課題の作成と音楽理論「楽器法」応用①（奏法について）

第11回　編曲課題の作成と音楽理論「楽器法」応用②（授業内小テストを含む）

第12回　編曲課題の仕上げ（1）（楽譜としてまとめる）

第13回　編曲課題の仕上げ（2）（演奏者との打ち合わせ、実演に向けての注意点）

第14回　編曲課題の実演（成果発表）

第15回　編曲課題（成果発表）についてのディスカッション、まとめ

第16回　オリエンテーション（2）前期の復習、後期課題の説明

第17回　作曲作品の解説と概要（1）「ピアノ曲」

第18回　作曲作品の解説と概要（2）「歌曲」

第19回　作曲課題の作成と音楽理論「形式」導入①（2部・3部形式）

第20回　作曲課題の作成と音楽理論「形式」導入②（実例からの考察）

第21回　作曲課題の作成と音楽理論「形式」基礎①（ロンド形式・変奏曲）

第22回　作曲課題の作成と音楽理論「形式」基礎②（実例からの考察）

第23回　作曲作品の解説と概要（3）「室内楽」

第24回　作曲作品の解説と概要（4）「管弦楽」

第25回　作曲課題の作成と音楽理論「形式」応用①（ソナタ形式）

第26回　作曲課題の作成と音楽理論「形式」応用②（授業内小テストを含む）

第27回　作曲課題の仕上げ（1）（楽譜としてまとめる）

第28回　作曲課題の仕上げ（2）（演奏者との打ち合わせ、実演に向けての注意点）

第29回　作曲課題の実演（成果発表）

第30回　作曲課題（成果発表）についてのディスカッション、まとめ

履修上の注意

課題作成に伴い、予習・復習の反復学修をしっかり行うこと。五線紙と筆記用具は必ず持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

予習・復習および課題作成などを60分程度行うこと。取り組んだ課題のフィードバックは各授業回で行う。

教科書・参考書

必要に応じて紹介、配付する。

科目名－クラス名

鍵盤ソルフェージュ②　A

曜日時限

月 4時限

担当教員

梅北　直昭

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	2～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

鍵盤ソルフェージュ①より高度な弾き歌い、伴奏づけ、移調奏などを鍵盤上で学修する。主要三和音を中心に、借用和音（副属七の和音）を学修する。授業はコードネームと和音記号で行う。ここでの弾き歌いとは「両手による開離位置での伴奏づけを中心としたもの」を指し、伴奏づけとは「メロディーに密集位置での伴奏づけ」を指す。移調奏なども年間を通じて積極的に行う。後期の最後に筆記試験で習熟度を確認する。定期試験で弾き歌いを中心とした実技試験を行う。
授業では音楽教育用コンピューターシステム(ミュージック･ラボラトリー）を使用する。教員と学生が1対1、または教員対複数学生でのやりとりが可能であり、グループ授業でありながら、同時にシステム上で交信することにより、教員が模範演奏を示したり、学生の演奏を確認するなど、個別にきめ細かく指導することができる。

学修成果

鍵盤ソルフェージュ①で学んだことを踏まえ、引き続き弾き歌い、伴奏づけ、移調奏が鍵盤上で即興的に演奏できるようになる。
また、グレード（3・4・5級程度）試験の対策になる。

授業展開と内容

第1回　テキストを使用して1年間の説明と授業開始。
テキストLevel3のNo.1~2を用いて、ホ短調（e moll）、ハ短調（c moll）の課題に取り組み、①で学修した内容の復習をし、より音楽的な弾き歌いに取り組む。同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。副属七の徹底、ドミナント→トニックの響き、及び転調による響きの変化を把握する。

第2回　副教材①を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第3回　テキストLevel3のNo.3~4を用いて、ニ長調（D dur）、ヘ長頭（F dur）の課題に取り組み、減五短七和音の復習に取り組む。また、引き続き同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。

第4回　副教材②を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第5回　テキストLevel3のNo.5~6を用いて、変ロ長調（B dur）、ト長頭（G dur）の課題に取り組み、減七和音、増三和音に取り組む。また、サブドミナントマイナーについて復習し、修得に努める。

第6回　副教材③を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第7回　テキストLevel3のNo.7~8を用いて、ヘ長調（F dur）、ニ短調（d moll）の課題に取り組み、平行調への転調を理解し、表現できるようにする。また、減五短七和音の修得に努める。

第8回　副教材④を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第9回　テキストLevel3のNo.9~11を用いて、イ長調（A dur）、ロ短調（h moll）、嬰ハ短調（cis moll）の課題に取り組み、減三和音、減七和音の修得に努める。また、長七和音の響きを確認し、修得に努める。

第10回　副教材⑤を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第11回　テキストLevel3のNo.12~13を用いて、変ホ長調（Es dur）の課題に取り組み、増三和音、減五短七和音の修得に努める。また、Ⅳm6から主和音への終止の響きを理解し、応用できるように修得する。

第12回　副教材⑥を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第13回　テキストLevel3のNo.14~15を用いて、ト長調（G dur）、ニ長調（D dur）の課題に取り組み、引き続き減五短七和音、減七和音の修得に努める。また、sus4から主和音への終止の響きを理解し、応用できるように修得する。

第14回　副教材⑦を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第15回　前期のまとめ。

第16回　テキストLevel3のNo.16~18を用いて、ト長調（G dur）、イ短調（a moll）、ヘ長調（F dur）の課題に取り組み、引き続き減五短七和音、減七和音の修得に努める。また、sus4から主和音への終止の響きを理解し、応用できるように修得する。

第17回　副教材⑧を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第18回　テキストLevel3のNo.19~20を用いて、ハ長調（C dur）、ニ短調（d moll）の課題に取り組み、引き続き減七和音の修得に努める。また、近親調からの和音の借用を理解し、応用できるように修得する。

第19回　副教材⑨を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第20回　テキストLevel3のNo.21~22を用いて、ニ短調（d moll）、嬰ヘ短調（fis moll）の課題に取り組み、引き続き減五短七和音、減七和音の修得に努める。また、近親調からの和音の借用を理解し、応用できるように修得する。

第21回　副教材⑩を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第22回　テキストLevel3のNo.23~24を用いて、イ短調（a moll）、ホ長調（E dur）の課題に取り組み、引き続き減五短七和音の修得に努める。また、長七和音の響

	きを確認し、修得に努める。
第23回	副教材⑪を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
第24回	テキストLevel3のNo.25~26を用いて、ヘ長調（F dur）、イ長調（A dur）の課題に取り組み、引き続き減五短七和音、減七和音の修得に努める。また、sus4から主和音への終止の響きを理解し、応用できるように修得する。
第25回	副教材⑫を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
第26回	テキストLevel3のNo.27~28を用いて、変ロ長調（B dur）、ホ長調（E dur）の課題に取り組み、引き続き減五短七和音、減七和音の修得に努める。また、sus4から主和音への終止の響きを理解し、応用できるように修得する。
第27回	副教材⑬を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
第28回	テキストLevel3のNo.29を用いて、ニ長調（D dur）の課題に取り組み、引き続き減七和音の修得に努める。また、左手ベースの動きを工夫し、転回形を自ら考えられるように修得する。
第29回	副教材⑭を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
第30回	1年のまとめ 筆記で習熟度を確認する

履修上の注意

定期試験では、筆記試験で習熟度を確認、実技試験は弾き歌いを中心に行う。試験の実施方法については担当教員の指示に従うこと。
イヤホン（有線・3.5mmミニプラグ）を持参することが望ましい。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業終了後には必ず復習をすること（60分）　スケールやカデンツなどの鍵盤での基礎的な練習を日課として行うこと。
15回目に行うまとめの課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。
また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

（教）鍵盤ソルフェージュ（昭和音楽大学）
（参）授業の進行に応じて指定する。

科目名－クラス名

鍵盤ソルフェージュ②　A

曜日時限

月 4時限

担当教員

梅北　直昭

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	2～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

鍵盤ソルフェージュ①より高度な弾き歌い、伴奏づけ、移調奏などを鍵盤上で学修する。主要三和音を中心に、借用和音（副属七の和音）を学修する。授業はコードネームと和音記号で行う。ここでの弾き歌いとは「両手による開離位置での伴奏づけを中心としたもの」を指し、伴奏づけとは「メロディーに密集位置での伴奏づけ」を指す。移調奏なども年間を通じて積極的に行う。後期の最後に筆記試験で習熟度を確認する。定期試験で弾き歌いを中心とした実技試験を行う。
授業では音楽教育用コンピューターシステム(ミュージック･ラボラトリー）を使用

学修成果

鍵盤ソルフェージュ①で学んだことを踏まえ、引き続き弾き歌い、伴奏づけ、移調奏が鍵盤上で即興的に演奏できるようになる。
また、グレード（3・4・5級程度）試験の対策になる。

授業展開と内容

第1回　テキストを使用して1年間の説明と授業開始。
テキストLevel3のNo.1~2を用いて、ホ短調（e moll）、ハ短調（c moll）の課題に取り組み、①で学修した内容の復習をし、より音楽的な弾き歌いに取り組む。同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。副属七の徹底、ドミナント→トニックの響き、及び転調による響きの変化を把握する。

第2回　副教材①を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第3回　テキストLevel3のNo.3~4を用いて、ニ長調（D dur）、ヘ長頭（F dur）の課題に取り組み、減五短七和音の復習に取り組む。また、引き続き同主短調や近親調からの借用を理解し、修得に努める。

第4回　副教材②を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第5回　テキストLevel3のNo.5~6を用いて、変ロ長調（B dur）、ト長頭（G dur）の課題に取り組み、減七和音、増三和音に取り組む。また、サブドミナントマイナーについて復習し、修得に努める。

第6回　副教材③を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第7回　テキストLevel3のNo.7~8を用いて、ヘ長調（F dur）、ニ短調（d moll）の課題に取り組み、平行調への転調を理解し、表現できるようにする。また、減五短七和音の修得に努める。

第8回　副教材④を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第9回　テキストLevel3のNo.9~11を用いて、イ長調（A dur）、ロ短調（h moll）、嬰ハ短調（cis moll）の課題に取り組み、減三和音、減七和音の修得に努める。また、長七和音の響きを確認し、修得に努める。

第10回　副教材⑤を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第11回　テキストLevel3のNo.12~13を用いて、変ホ長調（Es dur）の課題に取り組み、増三和音、減五短七和音の修得に努める。また、Ⅳm6から主和音への終止の響きを理解し、応用できるように修得する。

第12回　副教材⑥を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第13回　テキストLevel3のNo.14~15を用いて、ト長調（G dur）、ニ長調（D dur）の課題に取り組み、引き続き減五短七和音、減七和音の修得に努める。また、sus4から主和音への終止の響きを理解し、応用できるように修得する。

第14回　副教材⑦を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第15回　前期のまとめ。

第16回　テキストLevel3のNo.16~18を用いて、ト長調（G dur）、イ短調（a moll）、ヘ長調（F dur）の課題に取り組み、引き続き減五短七和音、減七和音の修得に努める。また、sus4から主和音への終止の響きを理解し、応用できるように修得する。

第17回　副教材⑧を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第18回　テキストLevel3のNo.19~20を用いて、ハ長調（C dur）、ニ短調（d moll）の課題に取り組み、引き続き減七和音の修得に努める。また、近親調からの和音の借用を理解し、応用できるように修得する。

第19回　副教材⑨を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第20回　テキストLevel3のNo.21~22を用いて、ニ短調（d moll）、嬰ヘ短調（fis moll）の課題に取り組み、引き続き減五短七和音、減七和音の修得に努める。また、近親調からの和音の借用を理解し、応用できるように修得する。

第21回　副教材⑩を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第22回　テキストLevel3のNo.23~24を用いて、イ短調（a moll）、ホ長調（E dur）の課題に取り組み、引き続き減五短七和音の修得に努める。また、長七和音の響きを確認し、修得に努める。

第23回　副教材⑪を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。

第24回	テキストLevel3のNo.25~26を用いて、ヘ長調（F dur）、イ長調（A dur）の課題に取り組み、引き続き減五短七和音、減七和音の修得に努める。また、sus4から主和音への終止の響きを理解し、応用できるように修得する。
第25回	副教材⑫を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
第26回	テキストLevel3のNo.27~28を用いて、変ロ長調（B dur）、ホ長調（E dur）の課題に取り組み、引き続き減五短七和音、減七和音の修得に努める。また、sus4から主和音への終止の響きを理解し、応用できるように修得する。
第27回	副教材⑬を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
第28回	テキストLevel3のNo.29を用いて、ニ長調（D dur）の課題に取り組み、引き続き減七和音の修得に努める。また、左手ベースの動きを工夫し、転回形を自ら考えられるように修得する。
第29回	副教材⑭を用いて、有名曲のコード譜を用いた弾き歌いの実践、伴奏付け、または移調奏に取り組む。
第30回	1年のまとめ 筆記で習熟度を確認する

履修上の注意

定期試験では、筆記試験で習熟度を確認、実技試験は弾き歌いを中心に行う。試験の実施方法については担当教員の指示に従うこと。
イヤホン（有線・3.5mmミニプラグ）を持参することが望ましい。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業終了後には必ず復習をすること（60分）　スケールやカデンツなどの鍵盤での基礎的な練習を日課として行うこと。
15回目に行うまとめの課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。
また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

（教）鍵盤ソルフェージュ（昭和音楽大学）
（参）授業の進行に応じて指定する。

科目名－クラス名

スコアリーディングII

曜日時限

木 3時限

担当教員

梅北　直昭

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	3～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	40	40	0	0	20	100

教育到達目標と概要

スコアリーディングの基礎能力を養うことを目標とする。スコアを読み、それをピアノで弾けるようになるためには、ハ音記号や移調楽器による五線の読譜に加え、記譜や楽器に関する知識も必要となる。この授業では、スコアリーディングの基礎実習を中心に展開する。

学修成果

ハ音記号の各音部譜表（ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、テノール）および移調楽器の読譜ができるようになる。スコアに関する知識の習得。オーケストラ・スコアのリダクションができる。スコアを読み、それをピアノで弾くことができる。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーションおよび単旋律のスコアリーディング

第2回　単旋律のスコアリーディングと読譜「テノール譜表」導入①（2度音程）、弦楽器総論

第3回　単旋律のスコアリーディングと読譜「テノール譜表」導入②（3度音程）、ヴァイオリンの楽器法と記譜法について

第4回　単旋律のスコアリーディングと読譜「テノール譜表」基礎①（4度音程）、ヴィオラの楽器法と記譜法について

第5回　単旋律のスコアリーディングと読譜「テノール譜表」基礎②（5度音程）、チェロの楽器法と記譜法について

第6回　既存曲の単旋律によるスコアリーディングと読譜「テノール譜表」応用①（6度音程）、コントラバスの楽器法と記譜法について

第7回　既存曲の単旋律によるスコアリーディングと読譜「テノール譜表」応用②（7度音程）、弦楽器の楽譜によるスコアリーディング

第8回　既存曲の単旋律によるスコアリーディングと読譜「テノール譜表」（8度音程）、木管楽器総論

第9回　既存曲の単旋律によるスコアリーディングと読譜「アルト譜表」導入①（2度音程）、フルートの楽器法と記譜法について

第10回　既存曲の単旋律によるスコアリーディングと読譜「アルト譜表」導入②（3度音程）、オーボエの楽器法と記譜法について

第11回　二声のスコアリーディングと読譜「アルト譜表」基礎①（4度音程）、クラリネットの楽器法と記譜法について

第12回　二声のスコアリーディングと読譜「アルト譜表」基礎②（5度音程）、ファゴットの楽器法と記譜法について

第13回　二声のスコアリーディングと読譜「アルト譜表」応用①（6度音程）、木管楽器の楽譜によるスコアリーディング

第14回　二声のスコアリーディングと読譜「アルト譜表」応用②（7度音程）、小編成の楽譜によるスコアリーディング

第15回　二声のスコアリーディングと読譜「アルト譜表」（8度音程）、前期のまとめ（授業内小テスト）

第16回　二声（異なる譜表）のスコアリーディングと読譜「ソプラノ譜表」導入、金管楽器総論

第17回　二声（異なる譜表）のスコアリーディングと読譜「ソプラノ譜表」基礎、ホルンの楽器法と記譜法について

第18回　二声（異なる譜表）のスコアリーディングと読譜「ソプラノ譜表」応用、トランペットの楽器法打楽器の楽器法と記譜法について

第19回　二声（異なる譜表）のスコアリーディングと読譜「ソプラノ譜表」（まとめ）、トロンボーンの楽器法と記譜法について

第20回　二声（異なる譜表）のスコアリーディングと読譜「メゾソプラノ譜表」導入、チューバの楽器法と記譜法について

第21回　二声から四声のスコアリーディングと読譜「メゾソプラノ譜表」基礎、金管楽器の楽譜によるスコアリーディング

第22回　二声から四声のスコアリーディングと読譜「メゾソプラノ譜表」応用、ハープの楽器法と記譜法について

第23回　二声から四声のスコアリーディングと読譜「メゾソプラノ譜表」（まとめ）、打楽器の楽器法と記譜法について

第24回　二声から四声のスコアリーディングとスコアの「リダクション」導入①

第25回　二声から四声のスコアリーディングとスコアの「リダクション」導入②（演奏を含む）

第26回　総合課題によるスコアリーディングとスコアの「リダクション」基礎①

第27回　総合課題によるスコアリーディングとスコアの「リダクション」基礎②（演奏を含む）

第28回　総合課題によるスコアリーディングとスコアの「リダクション」応用①

第29回　総合課題によるスコアリーディングとスコアの「リダクション」応用②（演奏を含む）

第30回　総合課題によるスコアリーディングと作成したリダクションスコアの演奏（試験に向けて）

履修上の注意

教科書および五線紙・筆記用具は必ず持参すること。
評価には実技のほか、課題提出「リダクションスコア」（第30回目の授業内で提出）、授業内小テスト（第15回目）が含まれる。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

教科書の予習・復習および読譜練習を60分程度行うこと。取り組んだ課題のフィードバックは各授業回で行う。

教科書・参考書

教科書：吉川和夫・船橋三十子・藤家渓子著『はじめてのソルフェージュ④スコアリーディング入門』（全音楽譜出版社）。その他の資料は必要に応じて配付する。

科目名－クラス名

聴音・視唱ソルフェージュ①　A

曜日時限

木 1時限

担当教員

梅北　直昭

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音と視唱の訓練により、ソルフェージュ能力を養成する。

学修成果

この授業では、聴音（書き取り）と視唱（歌うことを通して（1）音程、リズム、音階などの感覚、（2）読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成）をテーマとし、リズム、単旋律、2声、4声体和声の書き取り及び視唱の初級程度の能力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	聴音と視唱の学修方法および授業ガイダンス
第2回	3/4拍子のリズム聴音、および二度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.１を中心として行う
第3回	長調の単旋律聴音の導入、および三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.2を中心として行う
第4回	2分音符を中心とした2声聴音の導入、および四度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.3を中心として行う
第5回	4声体和声（密集）聴音の導入、および五度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.4を中心として行う
第6回	4/4拍子のリズム聴音、および六度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.5を中心として行う
第7回	短調の単旋律聴音の基礎練習、および七度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.6を中心として行う
第8回	4分音符を中心とした２声聴音の基礎練習、およびオクターヴの視唱練習を練習を「トスティ50番」No.7を中心として行う
第9回	4声体和声（密集）聴音の基礎練習、および二度音程と和音の変化の視唱練習を「トスティ50番」No.8を中心として行う
第10回	6/8拍子のリズム聴音、および二度・三度・四度音程と和音の変化の視唱練習を「トスティ50番」No.9を中心として行う
第11回	長調、短調の単旋律聴音の応用練習、および速いテンポで歌う二度・三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.10を中心として行う
第12回	8分音符を中心とした2声聴音の応用練習、および緩やかなテンポで歌う二度・三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.11を中心として行う
第13回	4声体和声（密集）聴音の応用練習、および切分音の伴奏型の上での視唱練習を「トスティ50番」No.12を中心として行う
第14回	リズム・単旋律・2声・4声体和声（密集）の聴音、および「トスティ50番」No.1～12を復習する
第15回	前期授業内容による総合演習
第16回	前期で学修した内容を含む聴音、およびタイを含む二度・三度・四度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.13を中心として行う
第17回	単旋律聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、およびタイと三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.14を中心として行う
第18回	高音部譜表の2声聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、および付点音符の視唱練習を「トスティ50番」No.15を中心として行う
第19回	ドッペルドミナントを含む4声体和声（密集）の聴音、および和声進行を感じながらの視唱練習を「トスティ50番」No.16を中心として行う
第20回	タイと三連符を多く含む単旋律聴音、および民謡風な旋律の視唱練習を「トスティ50番」No.17を中心として行う
第21回	低音部譜表の2声聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、およびバルカローレ風なリズムの視唱練習をを「トスティ50番」No.18を中心として行う
第22回	調号の多い4声体和声（密集）の聴音、および和音の変化と転調を感じながら視唱練習を「トスティ50番」No.19を中心として行う
第23回	音域の広い単旋律聴音、および速いパッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.20を中心として行う
第24回	大譜表の2声聴音、および二小節単位のフレーズの視唱練習を「トスティ50番」No.21を中心として行う
第25回	Ⅳ度調の属七を含む4声体和声（密集）の聴音、および速いテンポで歌う三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.22を中心として行う
第26回	跳躍を多く含む単旋律聴音、およびレガートな視唱を「トスティ50番」No.23を中心として行う
第27回	音域の広い2声聴音、および細かい音符の視唱を「トスティ50番」No.24を中心として行う
第28回	Ⅱ度調の属七を含む4声体和声（密集）の聴音、およびマルカートとレガートの視唱を「トスティ50番」No.25を中心として行う
第29回	総合的な内容を盛り込んだ聴音、および「トスティ50番」No.13～25の視唱を復習する
第30回	後期試験内容に即した総合演習

履修上の注意

基本ソルフェージュを履修するように指示があった学生は履修できない。プレイスメントテストまたは成績によりクラス分けを行うので指定されたクラスで受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の予習、復習、反復練習を十分に行うこと。視唱は楽譜を見るだけでなく、きちんと声を出して練習すること。聴音は授業内で実習した課題を鍵盤楽器などを用いて復習すること（120分/週）。15回目に行う総合演習の課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

「トスティ50番」中声用　畑中良輔他　（全音楽譜出版社）

科目名－クラス名

聴音・視唱ソルフェージュ①　B

曜日時限

木 1時限

担当教員

梅北　直昭

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音と視唱の訓練により、ソルフェージュ能力を養成する。

学修成果

この授業では、聴音（書き取り）と視唱（歌うことを通して（1）音程、リズム、音階などの感覚、（2）読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成）をテーマとし、リズム、単旋律、2声、4声体和声の書き取り及び視唱の初級程度の能力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　聴音と視唱の学修方法および授業ガイダンス

第2回　3/4拍子のリズム聴音、および二度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.１を中心として行う

第3回　長調の単旋律聴音の導入、および三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.2を中心として行う

第4回　2分音符を中心とした2声聴音の導入、および四度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.3を中心として行う

第5回　4声体和声（密集）聴音の導入、および五度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.4を中心として行う

第6回　4/4拍子のリズム聴音、および六度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.5を中心として行う

第7回　短調の単旋律聴音の基礎練習、および七度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.6を中心として行う

第8回　4分音符を中心とした２声聴音の基礎練習、およびオクターヴの視唱練習を練習を「トスティ50番」No.7を中心として行う

第9回　4声体和声（密集）聴音の基礎練習、および二度音程と和音の変化の視唱練習を「トスティ50番」No.8を中心として行う

第10回　6/8拍子のリズム聴音、および二度・三度・四度音程と和音の変化の視唱練習を「トスティ50番」No.9を中心として行う

第11回　長調、短調の単旋律聴音の応用練習、および速いテンポで歌う二度・三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.10を中心として行う

第12回　8分音符を中心とした2声聴音の応用練習、および緩やかなテンポで歌う二度・三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.11を中心として行う

第13回　4声体和声（密集）聴音の応用練習、および切分音の伴奏型の上での視唱練習を「トスティ50番」No.12を中心として行う

第14回　リズム・単旋律・2声・4声体和声（密集）の聴音、および「トスティ50番」No.1～12を復習する

第15回　前期授業内容による総合演習

第16回　前期で学修した内容を含む聴音、およびタイを含む二度・三度・四度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.13を中心として行う

第17回　単旋律聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、およびタイと三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.14を中心として行う

第18回　高音部譜表の2声聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、および付点音符の視唱練習を「トスティ50番」No.15を中心として行う

第19回　ドッペルドミナントを含む4声体和声（密集）の聴音、および和声進行を感じながらの視唱練習を「トスティ50番」No.16を中心として行う

第20回　タイと三連符を多く含む単旋律聴音、および民謡風な旋律の視唱練習を「トスティ50番」No.17を中心として行う

第21回　低音部譜表の2声聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、およびバルカローレ風なリズムの視唱練習をを「トスティ50番」No.18を中心として行う

第22回　調号の多い4声体和声（密集）の聴音、および和音の変化と転調を感じながら視唱練習を「トスティ50番」No.19を中心として行う

第23回　音域の広い単旋律聴音、および速いパッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.20を中心として行う

第24回　大譜表の2声聴音、および二小節単位のフレーズの視唱練習を「トスティ50番」No.21を中心として行う

第25回　Ⅳ度調の属七を含む4声体和声（密集）の聴音、および速いテンポで歌う三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.22を中心として行う

第26回　跳躍を多く含む単旋律聴音、およびレガートな視唱を「トスティ50番」No.23を中心として行う

第27回　音域の広い2声聴音、および細かい音符の視唱を「トスティ50番」No.24を中心として行う

第28回　Ⅱ度調の属七を含む4声体和声（密集）の聴音、およびマルカートとレガートの視唱を「トスティ50番」No.25を中心として行う

第29回　総合的な内容を盛り込んだ聴音、および「トスティ50番」No.13～25の視唱を復習する

第30回　後期試験内容に即した総合演習

履修上の注意

基本ソルフェージュを履修するように指示があった学生は履修できない。プレイスメントテストまたは成績によりクラス分けを行うので指定されたクラスで受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の予習、復習、反復練習を十分に行うこと。視唱は楽譜を見るだけでなく、きちんと声を出して練習すること。聴音は授業内で実習した課題を鍵盤楽器などを用いて復習すること（120分/週）。15回目に行う総合演習の課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

「トスティ50番」中声用　畑中良輔他　（全音楽譜出版社）

科目名－クラス名

聴音・視唱ソルフェージュ①　A

曜日時限

木 1時限

担当教員

梅北　直昭

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音と視唱の訓練により、ソルフェージュ能力を養成する。

学修成果

この授業では、聴音（書き取り）と視唱（歌うことを通して（1）音程、リズム、音階などの感覚、（2）読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成）をテーマとし、リズム、単旋律、2声、4声体和声の書き取り及び視唱の初級程度の能力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　聴音と視唱の学修方法および授業ガイダンス

第2回　3/4拍子のリズム聴音、および二度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.１を中心として行う

第3回　長調の単旋律聴音の導入、および三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.2を中心として行う

第4回　2分音符を中心とした２声聴音の導入、および四度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.3を中心として行う

第5回　4声体和声（密集）聴音の導入、および五度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.4を中心として行う

第6回　4/4拍子のリズム聴音、および六度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.5を中心として行う

第7回　短調の単旋律聴音の基礎練習、および七度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.6を中心として行う

第8回　4分音符を中心とした２声聴音の基礎練習、およびオクターヴの視唱練習を練習を「トスティ50番」No.7を中心として行う

第9回　4声体和声（密集）聴音の基礎練習、および二度音程と和音の変化の視唱練習を「トスティ50番」No.8を中心として行う

第10回　6/8拍子のリズム聴音、および二度・三度・四度音程と和音の変化の視唱練習を「トスティ50番」No.9を中心として行う

第11回　長調、短調の単旋律聴音の応用練習、および速いテンポで歌う二度・三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.10を中心として行う

第12回　8分音符を中心とした2声聴音の応用練習、および緩やかなテンポで歌う二度・三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.11を中心として行う

第13回　4声体和声（密集）聴音の応用練習、および切分音の伴奏型の上での視唱練習を「トスティ50番」No.12を中心として行う

第14回　リズム・単旋律・2声・4声体和声（密集）の聴音、および「トスティ50番」No.1～12を復習する

第15回　前期授業内容による総合演習

第16回　前期で学修した内容を含む聴音、およびタイを含む二度・三度・四度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.13を中心として行う

第17回　単旋律聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、およびタイと三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.14を中心として行う

第18回　高音部譜表の2声聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、および付点音符の視唱練習を「トスティ50番」No.15を中心として行う

第19回　ドッペルドミナントを含む4声体和声（密集）の聴音、および和声進行を感じながらの視唱練習を「トスティ50番」No.16を中心として行う

第20回　タイと三連符を多く含む単旋律聴音、および民謡風な旋律の視唱練習を「トスティ50番」No.17を中心として行う

第21回　低音部譜表の2声聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、およびバルカローレ風なリズムの視唱練習をを「トスティ50番」No.18を中心として行う

第22回　調号の多い4声体和声（密集）の聴音、および和音の変化と転調を感じながら視唱練習を「トスティ50番」No.19を中心として行う

第23回　音域の広い単旋律聴音、および速いパッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.20を中心として行う

第24回　大譜表の2声聴音、および二小節単位のフレーズの視唱練習を「トスティ50番」No.21を中心として行う

第25回　Ⅳ度調の属七を含む4声体和声（密集）の聴音、および速いテンポで歌う三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.22を中心として行う

第26回　跳躍を多く含む単旋律聴音、およびレガートな視唱を「トスティ50番」No.23を中心として行う

第27回　音域の広い2声聴音、および細かい音符の視唱を「トスティ50番」No.24を中心として行う

第28回　Ⅱ度調の属七を含む4声体和声（密集）の聴音、およびマルカートとレガートの視唱を「トスティ50番」No.25を中心として行う

第29回　総合的な内容を盛り込んだ聴音、および「トスティ50番」No.13～25の視唱を復習する

第30回　後期試験内容に即した総合演習

履修上の注意

基本ソルフェージュを履修するように指示があった学生は履修できない。プレイスメントテストまたは成績によりクラス分けを行うので指定されたクラスで受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の予習、復習、反復練習を十分に行うこと。視唱は楽譜を見るだけでなく、きちんと声を出して練習すること。聴音は授業内で実習した課題を鍵盤楽器などを用いて復習すること（120分/週）。15回目に行う総合演習の課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

「トスティ50番」中声用　畑中良輔他　（全音楽譜出版社）

科目名－クラス名

聴音・視唱ソルフェージュ①　B

曜日時限

木 1時限

担当教員

梅北　直昭

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音と視唱の訓練により、ソルフェージュ能力を養成する。

学修成果

この授業では、聴音（書き取り）と視唱（歌うことを通して（1）音程、リズム、音階などの感覚、（2）読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成）をテーマとし、リズム、単旋律、2声、4声体和声の書き取り及び視唱の初級程度の能力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　聴音と視唱の学修方法および授業ガイダンス

第2回　3/4拍子のリズム聴音、および二度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.１を中心として行う

第3回　長調の単旋律聴音の導入、および三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.2を中心として行う

第4回　2分音符を中心とした２声聴音の導入、および四度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.3を中心として行う

第5回　4声体和声（密集）聴音の導入、および五度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.4を中心として行う

第6回　4/4拍子のリズム聴音、および六度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.5を中心として行う

第7回　短調の単旋律聴音の基礎練習、および七度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.6を中心として行う

第8回　4分音符を中心とした２声聴音の基礎練習、およびオクターヴの視唱練習を練習を「トスティ50番」No.7を中心として行う

第9回　4声体和声（密集）聴音の基礎練習、および二度音程と和音の変化の視唱練習を「トスティ50番」No.8を中心として行う

第10回　6/8拍子のリズム聴音、および二度・三度・四度音程と和音の変化の視唱練習を「トスティ50番」No.9を中心として行う

第11回　長調、短調の単旋律聴音の応用練習、および速いテンポで歌う二度・三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.10を中心として行う

第12回　8分音符を中心とした2声聴音の応用練習、および緩やかなテンポで歌う二度・三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.11を中心として行う

第13回　4声体和声（密集）聴音の応用練習、および切分音の伴奏型の上での視唱練習を「トスティ50番」No.12を中心として行う

第14回　リズム・単旋律・2声・4声体和声（密集）の聴音、および「トスティ50番」No.1～12を復習する

第15回　前期授業内容による総合演習

第16回　前期で学修した内容を含む聴音、およびタイを含む二度・三度・四度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.13を中心として行う

第17回　単旋律聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、およびタイと三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.14を中心として行う

第18回　高音部譜表の2声聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、および付点音符の視唱練習を「トスティ50番」No.15を中心として行う

第19回　ドッペルドミナントを含む4声体和声（密集）の聴音、および和声進行を感じながらの視唱練習を「トスティ50番」No.16を中心として行う

第20回　タイと三連符を多く含む単旋律聴音、および民謡風な旋律の視唱練習を「トスティ50番」No.17を中心として行う

第21回　低音部譜表の2声聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、およびバルカローレ風なリズムの視唱練習をを「トスティ50番」No.18を中心として行う

第22回　調号の多い4声体和声（密集）の聴音、および和音の変化と転調を感じながら視唱練習を「トスティ50番」No.19を中心として行う

第23回　音域の広い単旋律聴音、および速いパッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.20を中心として行う

第24回　大譜表の2声聴音、および二小節単位のフレーズの視唱練習を「トスティ50番」No.21を中心として行う

第25回　Ⅳ度調の属七を含む4声体和声（密集）の聴音、および速いテンポで歌う三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.22を中心として行う

第26回　跳躍を多く含む単旋律聴音、およびレガートな視唱を「トスティ50番」No.23を中心として行う

第27回　音域の広い2声聴音、および細かい音符の視唱を「トスティ50番」No.24を中心として行う

第28回　Ⅱ度調の属七を含む4声体和声（密集）の聴音、およびマルカートとレガートの視唱を「トスティ50番」No.25を中心として行う

第29回　総合的な内容を盛り込んだ聴音、および「トスティ50番」No.13～25の視唱を復習する

第30回　後期試験内容に即した総合演習

履修上の注意

基本ソルフェージュを履修するように指示があった学生は履修できない。プレイスメントテストまたは成績によりクラス分けを行うので指定されたクラスで受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の予習、復習、反復練習を十分に行うこと。視唱は楽譜を見るだけでなく、きちんと声を出して練習すること。聴音は授業内で実習した課題を鍵盤楽器などを用いて復習すること（120分/週）。15回目に行う総合演習の課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

「トスティ50番」中声用　畑中良輔他　（全音楽譜出版社）

科目名－クラス名

ミュージックセオリー（中級）

曜日時限

火 3時限

担当教員

梅北　直昭

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

作曲・編曲、楽曲分析に必要な和声学を中心とした理論と技術（専門的能力として基礎力、技術力、専門知識、学士力として論理的思考力）を修得することを目的とする。初級、中級、上級のグレード別に編成されていて、履修者は各々のレベルに沿って学修する。

学修成果

和声学をテーマとし、本科目では、準固有和音、ドッペルドミナント、Ⅳ7、＋Ⅳ7、-Ⅱ、S諸和音の総括、近親転調、ソプラノ課題、調設定、借用和音を修得する。

授業展開と内容

第1回　準固有和音の概説

第2回　準固有和音の技法について（基礎）

第3回　準固有和音の技法について（応用）

第4回　Ⅴ度調のⅤ度の和音概説

第5回　Ⅴ度調のⅤ度の和音の技法について（基礎）

第6回　Ⅴ度調のⅤ度の和音の技法について（応用）

第7回　Ⅴ度調のⅤ度の和音の技法について（総括）

第8回　Ⅳ7　＋Ⅳ7　-Ⅱの諸和音の概説

第9回　Ⅳ7　＋Ⅳ7　-Ⅱの諸和音の技法について（基礎）

第10回　Ⅳ7　＋Ⅳ7　-Ⅱの諸和音の技法について（応用）

第11回　K2における S諸和音の総括

第12回　K3における S諸和音の総括

第13回　近親転調の概説

第14回　近親転調の技法について（基礎）

第15回　前期の振り返り・まとめ

第16回　近親転調の技法について（応用）

第17回　近親転調の技法について（総括）

第18回　ソプラノ課題の概説

第19回　ソプラノ課題の技法について（基礎）

第20回　ソプラノ課題の技法について（応用）

第21回　ソプラノ課題の技法について（総括）

第22回　調設定の原理の概説

第23回　調設定の原理の技法について（基礎）

第24回　調設定の原理の技法について（応用）

第25回　調設定の原理の技法について（総括）

第26回　各種借用和音の技法について（基礎）

第27回　各種借用和音の技法について（応用）

第28回　各種借用和音の技法について（総括）

第29回　総合練習

第30回　後期の振り返り・まとめ

履修上の注意

学修レベルによりクラス分けを行う。尚、この授業は学生の進捗状況に応じて授業を進めていく。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週の授業時に指示されるので、授業には必ず与えられた課題を実施（60分程度）してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各授業回で行う。

教科書・参考書

教科書（購入必要）：「和声 ― 理論と実習 ―　Ⅱ巻・ Ⅲ巻」島岡　譲（執筆責任）他、音楽之友社

科目名－クラス名

ミュージックセオリー（中級）

曜日時限

火 3時限

担当教員

梅北　直昭

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

作曲・編曲、楽曲分析に必要な和声学を中心とした理論と技術（専門的能力として基礎力、技術力、専門知識、学士力として論理的思考力）を修得することを目的とする。初級、中級、上級のグレード別に編成されていて、履修者は各々のレベルに沿って学修する。

学修成果

和声学をテーマとし、本科目では、準固有和音、ドッペルドミナント、Ⅳ7、＋Ⅳ7、-Ⅱ、S諸和音の総括、近親転調、ソプラノ課題、調設定、借用和音を修得する。

授業展開と内容

第1回　準固有和音の概説

第2回　準固有和音の技法について（基礎）

第3回　準固有和音の技法について（応用）

第4回　Ⅴ度調のⅤ度の和音概説

第5回　Ⅴ度調のⅤ度の和音の技法について（基礎）

第6回　Ⅴ度調のⅤ度の和音の技法について（応用）

第7回　Ⅴ度調のⅤ度の和音の技法について（総括）

第8回　Ⅳ7　＋Ⅳ7　-Ⅱの諸和音の概説

第9回　Ⅳ7　＋Ⅳ7　-Ⅱの諸和音の技法について（基礎）

第10回　Ⅳ7　＋Ⅳ7　-Ⅱの諸和音の技法について（応用）

第11回　K2における S諸和音の総括

第12回　K3における S諸和音の総括

第13回　近親転調の概説

第14回　近親転調の技法について（基礎）

第15回　前期の振り返り・まとめ

第16回　近親転調の技法について（応用）

第17回　近親転調の技法について（総括）

第18回　ソプラノ課題の概説

第19回　ソプラノ課題の技法について（基礎）

第20回　ソプラノ課題の技法について（応用）

第21回　ソプラノ課題の技法について（総括）

第22回　調設定の原理の概説

第23回　調設定の原理の技法について（基礎）

第24回　調設定の原理の技法について（応用）

第25回　調設定の原理の技法について（総括）

第26回　各種借用和音の技法について（基礎）

第27回　各種借用和音の技法について（応用）

第28回　各種借用和音の技法について（総括）

第29回　総合練習

第30回　後期の振り返り・まとめ

履修上の注意

学修レベルによりクラス分けを行う。尚、この授業は学生の進捗状況に応じて授業を進めていく。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週の授業時に指示されるので、授業には必ず与えられた課題を実施（60分程度）してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各授業回で行う。

教科書・参考書

教科書（購入必要）：「和声 ― 理論と実習 ―　Ⅱ巻・ Ⅲ巻」島岡　譲（執筆責任）他、音楽之友社

科目名－クラス名

ポピュラー作曲・編曲法④　サウンドプロデュース

曜日時限

水 3時限

担当教員

梅北　直昭

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	4～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	80	0	0	20	100

教育到達目標と概要

ポピュラー作曲・編曲法①～③で学んだ事柄を踏まえて、楽曲をアレンジする手法について学修する。ストリングセクションおよびブラスセクションを取り上げ、基になる楽曲をアレンジする方法と、それぞれの楽器の特徴・機能を理解する。更に、幅広く楽器アレンジについて分析と実践を行い、ポピュラー音楽の作曲・編曲に応用できる知識と技術を修得する。

学修成果

弦楽器および管楽器を用いたポピュラー音楽の作曲・編曲ができるようになる。弦楽器および管楽器の発音原理や奏法を理解できるようになる。バンド譜やオーケストラのスコアを読譜し、分析できるようになる。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション（授業の概説）

第2回　ストリングセクションについて、構造と発音原理を理解する

第3回　ストリングスを用いた楽曲を分析する

第4回　スコアの作成（ストリングスセクション）

第5回　DAW上でのストリングスを用いた打ち込みについて（奏法のシミュレーション）

第6回　シミュレーション：ストリングスセクション（視聴と分析）

第7回　シミュレーション：ストリングスセクション（作成と応用）

第8回　ストリングセクションについて（まとめ）【授業内小テスト】

第9回　ブラスセクション（ホーンセクション）について、構造と発音原理を理解する

第10回　ブラスを用いた楽曲を分析する

第11回　スコアの作成（ブラスセクション）

第12回　DAW上でのでブラスを用いた打ち込みについて（奏法のシミュレーション）

第13回　シミュレーション：ブラスセクション（視聴と分析）

第14回　シミュレーション：ブラスセクション（作成と応用）

第15回　ブラスセクションについて（まとめ）【授業内小テスト】

第16回　前期の復習、後期授業の確認

第17回　オーケストラアレンジについて

第18回　自作曲への導入（ストリングスセクション）とスコアの作成

第19回　自作曲へ応用（ストリングスセクション）とMIDIプログラミング

第20回　自作曲での実践と発展（ストリングスセクション）

第21回　ビッグバンドのアレンジについて

第22回　自作曲への導入（ブラスセクション）とスコアの作成

第23回　自作曲へ応用（ブラスセクション）とMIDIプログラミング

第24回　自作曲での実践と発展（ブラスセクション）

第25回　生楽器を用いたアレンジについて

第26回　ポピュラー音楽におけるアレンジ１（視聴と分析）

第27回　ポピュラー音楽におけるアレンジ２（制作方法について）

第28回　ポピュラー音楽におけるアレンジ３（実践）

第29回　ポピュラー音楽におけるアレンジ４（発展：映像）

第30回　視聴、ディスカッション【課題提出】

履修上の注意

五線紙を用意すること。
評価には課題提出の他、授業内小テストが含まれる。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

指示された課題を次回までに必ずやってくること（およそ60分）。取り組んだ課題のフィードバックは各授業回で行う。

教科書・参考書

特になし。必要に応じて配布あるいは指示する。

科目名－クラス名

作曲・エレクトロニクス実技①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

西洋の古典的な音楽作品から現代の音楽作品に触れることによって、作曲のための方法論を見出す。週1回（60分）の個人レッスンにて、作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を学修する。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として知識・理解を深め、汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

様々な作曲家の作品分析などを通して楽式の知識と感覚を身につけることをテーマとし、作曲に必要な基本の技術を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　楽曲分析（作曲家の時代背景）と作曲技法について

第2回　楽曲分析（作曲家と社会との関わり）と作曲技法について

第3回　楽曲分析（作曲家と芸術家との関わり）と作曲技法について

第4回　楽曲分析（カデンツと和声）と作曲技法について

第5回　楽曲分析（応用形式）と作曲技法について

第6回　楽器法と作曲技法の研究（導入）

第7回　楽器法と作曲技法の研究（基本）

第8回　楽器法と作曲技法の研究（応用）

第9回　楽器法と作曲技法の研究（実践）

第10回　楽器法と作曲技法の研究（総括）

第11回　楽曲分析（ソナタ形式）の研究と作曲技法の実践（導入）

第12回　楽曲分析（ソナタ形式）の研究と作曲技法の実践（基本）

第13回　楽曲分析（ソナタ形式）の研究と作曲技法の実践（応用）

第14回　楽曲分析（ソナタ形式）の研究と作曲技法の実践（総括）

第15回　前期の振り返り・まとめ

第16回　二重奏までの室内楽の創作研究（導入）

第17回　二重奏までの室内楽の創作研究（基本）

第18回　二重奏までの室内楽の創作研究（応用）

第19回　二重奏までの室内楽の創作研究（総括）

第20回　二重奏までの室内楽の作曲技法の実践（基本）

第21回　二重奏までの室内楽の作曲技法の実践（応用）

第22回　二重奏までの室内楽の作曲技法の実践（総括）

第23回　年度末提出作品の創作（曲の構想）

第24回　年度末提出作品の創作（モチーフ）

第25回　年度末提出作品の創作（構造）

第26回　年度末提出作品の創作（全体のスケッチ）

第27回　年度末提出作品の創作（全体のまとめ）

第28回　年度末提出作品の創作（仕上げ）

第29回　年度末提出作品の創作（総括）

第30回　年間の振り返り・まとめ

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけでなく、予習・復習を含め日常的に取り組むこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

適宜資料を配付する

科目名－クラス名

作曲・エレクトロニクス実技①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

西洋の古典的な音楽作品から現代の音楽作品に触れることによって、作曲のための方法論を見出す。週1回（60分）の個人レッスンにて、作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を学修する。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として知識・理解を深め、汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

様々な作曲家の作品分析などを通して楽式の知識と感覚を身につけることをテーマとし、作曲に必要な基本の技術を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　楽曲分析（作曲家の時代背景）と作曲技法について

第2回　楽曲分析（作曲家と社会との関わり）と作曲技法について

第3回　楽曲分析（作曲家と芸術家との関わり）と作曲技法について

第4回　楽曲分析（カデンツと和声）と作曲技法について

第5回　楽曲分析（応用形式）と作曲技法について

第6回　楽器法と作曲技法の研究（導入）

第7回　楽器法と作曲技法の研究（基本）

第8回　楽器法と作曲技法の研究（応用）

第9回　楽器法と作曲技法の研究（実践）

第10回　楽器法と作曲技法の研究（総括）

第11回　楽曲分析（ソナタ形式）の研究と作曲技法の実践（導入）

第12回　楽曲分析（ソナタ形式）の研究と作曲技法の実践（基本）

第13回　楽曲分析（ソナタ形式）の研究と作曲技法の実践（応用）

第14回　楽曲分析（ソナタ形式）の研究と作曲技法の実践（総括）

第15回　前期の振り返り・まとめ

第16回　二重奏までの室内楽の創作研究（導入）

第17回　二重奏までの室内楽の創作研究（基本）

第18回　二重奏までの室内楽の創作研究（応用）

第19回　二重奏までの室内楽の創作研究（総括）

第20回　二重奏までの室内楽の作曲技法の実践（基本）

第21回　二重奏までの室内楽の作曲技法の実践（応用）

第22回　二重奏までの室内楽の作曲技法の実践（総括）

第23回　年度末提出作品の創作（曲の構想）

第24回　年度末提出作品の創作（モチーフ）

第25回　年度末提出作品の創作（構造）

第26回　年度末提出作品の創作（全体のスケッチ）

第27回　年度末提出作品の創作（全体のまとめ）

第28回　年度末提出作品の創作（仕上げ）

第29回　年度末提出作品の創作（総括）

第30回　年間の振り返り・まとめ

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけでなく、予習・復習を含め日常的に取り組むこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

適宜資料を配付する

科目名－クラス名

作曲・エレクトロニクス実技②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

幅広く作曲ができるようになるための技量を身につける。週1回（60分）の個人レッスンにて、作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を学修する。エレクトロニカ系では基本的なDAWソフトでの作曲方法を学修する。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として知識・理解を深め、汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

作曲・エレクトロニクス実技①で学んだ内容を踏まえて作曲技術を向上させることができる。

授業展開と内容

第1回	リズムの分析と作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての導入（エレクトロニカ系）
第2回	上記楽曲分析からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての基本（エレクトロニカ系）
第3回	上記楽曲分析からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての実践（エレクトロニカ系）
第4回	メロディーの分析と作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての導入（エレクトロニカ系）
第5回	上記楽曲分析からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての基本（エレクトロニカ系）
第6回	上記楽曲分析からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての実践（エレクトロニカ系）
第7回	１回～６回までの総括
第8回	クラシック音楽またはコンピュータ音楽の作曲技法の導入
第9回	クラシック音楽またはコンピュータ音楽の作曲技法の基本
第10回	クラシック音楽またはコンピュータ音楽の作曲技法の応用
第11回	クラシック音楽またはコンピュータ音楽の作曲技法の実践
第12回	アコースティック楽器または電子楽器を使用した楽曲制作の基礎
第13回	アコースティック楽器または電子楽器を使用した楽曲制作の応用
第14回	アコースティック楽器または電子楽器を使用した楽曲制作の実践
第15回	前期の振り返り・まとめ
第16回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の創作研究についての導入
第17回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の創作研究についての基本
第18回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の創作研究についての応用
第19回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の創作研究についての総括
第20回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の作曲技法についての基本
第21回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の作曲技法についての応用
第22回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の作曲技法についての総括
第23回	年度末提出作品の創作（曲の構想）
第24回	年度末提出作品の創作（モチーフ）
第25回	年度末提出作品の創作（構造）
第26回	年度末提出作品の創作（全体のスケッチ）
第27回	年度末提出作品の創作（全体のまとめ）
第28回	年度末提出作品の創作（仕上げ）
第29回	年度末提出作品の創作（総括）
第30回	年間の振り返り・まとめ

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけでなく、予習・復習を含め日常的に取り組むこと

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

適宜資料を配付する

科目名－クラス名

作曲・エレクトロニクス実技②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

幅広く作曲ができるようになるための技量を身につける。週1回（60分）の個人レッスンにて、作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を学修する。エレクトロニカ系では基本的なDAWソフトでの作曲方法を学修する。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として知識・理解を深め、汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

作曲・エレクトロニクス実技①で学んだ内容を踏まえて作曲技術を向上させることができる。

授業展開と内容

第1回	リズムの分析と作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての導入（エレクトロニカ系）
第2回	上記楽曲分析からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての基本（エレクトロニカ系）
第3回	上記楽曲分析からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての実践（エレクトロニカ系）
第4回	メロディーの分析と作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての導入（エレクトロニカ系）
第5回	上記楽曲分析からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての基本（エレクトロニカ系）
第6回	上記楽曲分析からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての実践（エレクトロニカ系）
第7回	１回～６回までの総括
第8回	クラシック音楽またはコンピュータ音楽の作曲技法の導入
第9回	クラシック音楽またはコンピュータ音楽の作曲技法の基本
第10回	クラシック音楽またはコンピュータ音楽の作曲技法の応用
第11回	クラシック音楽またはコンピュータ音楽の作曲技法の実践
第12回	アコースティック楽器または電子楽器を使用した楽曲制作の基礎
第13回	アコースティック楽器または電子楽器を使用した楽曲制作の応用
第14回	アコースティック楽器または電子楽器を使用した楽曲制作の実践
第15回	前期の振り返り・まとめ
第16回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の創作研究についての導入
第17回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の創作研究についての基本
第18回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の創作研究についての応用
第19回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の創作研究についての総括
第20回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の作曲技法についての基本
第21回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の作曲技法についての応用
第22回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の作曲技法についての総括
第23回	年度末提出作品の創作（曲の構想）
第24回	年度末提出作品の創作（モチーフ）
第25回	年度末提出作品の創作（構造）
第26回	年度末提出作品の創作（全体のスケッチ）
第27回	年度末提出作品の創作（全体のまとめ）
第28回	年度末提出作品の創作（仕上げ）
第29回	年度末提出作品の創作（総括）
第30回	年間の振り返り・まとめ

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけでなく、予習・復習を含め日常的に取り組むこと

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

適宜資料を配付する

科目名－クラス名

作曲・エレクトロニクス実技③

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	3～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

週1回（60分）の個人レッスンにより、作曲・エレクトロニクス実技①②で学んだ内容を踏まえて、作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を修得する。エレクトロニカ系ではコンピュータ音楽・録音制作・音響機器操作の技術を活かした創作を行う。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として知識・理解を深め、汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

幅広い音楽ジャンルをカバーする作曲技術を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　高度な楽曲分析の導入（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽について（エレクトロニカ系）

第2回　上記楽曲分析からの作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の導入（エレクトロニカ系）

第3回　高度な楽曲分析の基本（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の基礎（エレクトロニカ系）

第4回　上記楽曲分析からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の応用（エレクトロニカ系）

第5回　高度な楽曲分析の実践（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の基礎（エレクトロニカ系）

第6回　上記楽曲分析からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の応用（エレクトロニカ系）

第7回　高度な楽曲分析の総合演習（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の実践（エレクトロニカ系）

第8回　上記楽曲分析からの作曲技法の総合演習（芸術音楽作曲系）、２?７回までの総括（エレクトロニカ系）

第9回　高度な楽器法の導入（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の導入（エレクトロニカ系）

第10回　上記楽器法からの作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の基礎（エレクトロニカ系）

第11回　高度な楽器法の基本（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の応用（エレクトロニカ系）

第12回　上記楽器法からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の基礎（エレクトロニカ系）

第13回　高度な楽器法の実践（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の応用（エレクトロニカ系）

第14回　上記楽器法からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の実践（エレクトロニカ系）

第15回　前期の振り返り・まとめ

第16回　室内楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての導入

第17回　室内楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての基礎

第18回　室内楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての応用

第19回　管弦楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての導入

第20回　管弦楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての応用

第21回　管弦楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての実践

第22回　１回?６回までの総括

第23回　年度末作品について

第24回　作品の創作（構想）

第25回　作品の創作（モチーフ）

第26回　作品の創作（構造）

第27回　作品の創作（全体のスケッチ）

第28回　作品の創作（全体のまとめ）

第29回　作品の創作（仕上げ）

第30回　年間の振り返り・まとめ

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけではなく、予習・復習を含めて日常的に取り組むこと

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

適宜資料を配付する

科目名－クラス名

作曲・エレクトロニクス実技③

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	3～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

週1回（60分）の個人レッスンにより、作曲・エレクトロニクス実技①②で学んだ内容を踏まえて、作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を修得する。エレクトロニカ系ではコンピュータ音楽・録音制作・音響機器操作の技術を活かした創作を行う。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として知識・理解を深め、汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

幅広い音楽ジャンルをカバーする作曲技術を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　高度な楽曲分析の導入（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽について（エレクトロニカ系）

第2回　上記楽曲分析からの作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の導入（エレクトロニカ系）

第3回　高度な楽曲分析の基本（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の基礎（エレクトロニカ系）

第4回　上記楽曲分析からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の応用（エレクトロニカ系）

第5回　高度な楽曲分析の実践（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の基礎（エレクトロニカ系）

第6回　上記楽曲分析からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の応用（エレクトロニカ系）

第7回　高度な楽曲分析の総合演習（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の実践（エレクトロニカ系）

第8回　上記楽曲分析からの作曲技法の総合演習（芸術音楽作曲系）、２～７回までの総括（エレクトロニカ系）

第9回　高度な楽器法の導入（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の導入（エレクトロニカ系）

第10回　上記楽器法からの作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の基礎（エレクトロニカ系）

第11回　高度な楽器法の基本（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の応用（エレクトロニカ系）

第12回　上記楽器法からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の基礎（エレクトロニカ系）

第13回　高度な楽器法の実践（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の応用（エレクトロニカ系）

第14回　上記楽器法からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の実践（エレクトロニカ系）

第15回　前期の振り返り・まとめ

第16回　室内楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての導入

第17回　室内楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての基礎

第18回　室内楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての応用

第19回　管弦楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての導入

第20回　管弦楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての応用

第21回　管弦楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての実践

第22回　１回～６回までの総括

第23回　年度末作品について

第24回　作品の創作（構想）

第25回　作品の創作（モチーフ）

第26回　作品の創作（構造）

第27回　作品の創作（全体のスケッチ）

第28回　作品の創作（全体のまとめ）

第29回　作品の創作（仕上げ）

第30回　年間の振り返り・まとめ

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけではなく、予習・復習を含めて日常的に取り組むこと

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

適宜資料を配付する

科目名－クラス名

作曲・エレクトロニクス実技④

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	4～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

週1回（60分）の個人レッスン。卒業作品の創作に必要な技量を身に付けることを目標とする。作曲・エレクトロニクス実技①?③で学んだ内容を踏まえて作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を修得する。エレクトロニカ系ではコンピュータ音楽・録音制作・音響機器操作の技術を活かした創作を行う。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として知識・理解を深め、汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

創作に必要な理論の理解と技術を用い、幅広い作品の創作ができるようになる。

授業展開と内容

第1回	卒業作品のテーマに基づいて、楽曲分析の導入（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽について（エレクトロニカ系）
第2回	上記楽曲分析からの作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の導入（エレクトロニカ系）
第3回	卒業作品のテーマに基づいて、楽曲分析の基本（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の基礎（エレクトロニカ系）
第4回	上記楽曲分析からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の応用（エレクトロニカ系）
第5回	卒業作品のテーマに基づいて、楽曲分析の実践（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の基礎（エレクトロニカ系）
第6回	上記楽曲分析からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の応用（エレクトロニカ系）
第7回	卒業作品のテーマに基づいて、楽曲分析の総合演習（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の実践（エレクトロニカ系）
第8回	上記楽曲分析からの作曲技法の総合演習（芸術音楽作曲系）、２?７回までの総括（エレクトロニカ系）
第9回	卒業作品のテーマに基づいて、楽器法の導入（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の導入（エレクトロニカ系）
第10回	上記楽器法からの作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の基礎（エレクトロニカ系）
第11回	卒業作品のテーマに基づいて、楽器法の基本（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の応用（エレクトロニカ系）
第12回	上記楽器法からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の基礎（エレクトロニカ系）
第13回	卒業作品のテーマに基づいて、楽器法の実践（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の応用（エレクトロニカ系）
第14回	上記楽器法からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の実践（エレクトロニカ系）
第15回	前期の振り返り・まとめ
第16回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての導入
第17回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての基礎
第18回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての応用
第19回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての導入
第20回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての応用
第21回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての実践
第22回	１回?６回までの総括
第23回	卒業作品の創作（コンセプトとテーマ）
第24回	卒業作品の創作（構想）
第25回	卒業作品の創作（モチーフ）
第26回	卒業作品の創作（構造）
第27回	卒業作品の創作（全体のスケッチ）
第28回	卒業作品の創作（全体のまとめ）
第29回	卒業作品の創作（仕上げ）
第30回	年間の振り返り・まとめ

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけではなく、予習・復習を含めて日常的に取り組むこと

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

適宜資料を配付する

科目名－クラス名

作曲・エレクトロニクス実技④

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	4～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

週1回（60分）の個人レッスン。卒業作品の創作に必要な技量を身に付けることを目標とする。作曲・エレクトロニクス実技①～③で学んだ内容を踏まえて作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を修得する。エレクトロニカ系ではコンピュータ音楽・録音制作・音響機器操作の技術を活かした創作を行う。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として知識・理解を深め、汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

創作に必要な理論の理解と技術を用い、幅広い作品の創作ができるようになる。

授業展開と内容

第1回	卒業作品のテーマに基づいて、楽曲分析の導入（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽について（エレクトロニカ系）
第2回	上記楽曲分析からの作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の導入（エレクトロニカ系）
第3回	卒業作品のテーマに基づいて、楽曲分析の基本（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の基礎（エレクトロニカ系）
第4回	上記楽曲分析からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の応用（エレクトロニカ系）
第5回	卒業作品のテーマに基づいて、楽曲分析の実践（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の基礎（エレクトロニカ系）
第6回	上記楽曲分析からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の応用（エレクトロニカ系）
第7回	卒業作品のテーマに基づいて、楽曲分析の総合演習（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の実践（エレクトロニカ系）
第8回	上記楽曲分析からの作曲技法の総合演習（芸術音楽作曲系）、２～７回までの総括（エレクトロニカ系）
第9回	卒業作品のテーマに基づいて、楽器法の導入（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の導入（エレクトロニカ系）
第10回	上記楽器法からの作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の基礎（エレクトロニカ系）
第11回	卒業作品のテーマに基づいて、楽器法の基本（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の応用（エレクトロニカ系）
第12回	上記楽器法からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の基礎（エレクトロニカ系）
第13回	卒業作品のテーマに基づいて、楽器法の実践（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の応用（エレクトロニカ系）
第14回	上記楽器法からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の実践（エレクトロニカ系）
第15回	前期の振り返り・まとめ
第16回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての導入
第17回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての基礎
第18回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての応用
第19回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての導入
第20回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての応用
第21回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての実践
第22回	１回～６回までの総括
第23回	卒業作品の創作（コンセプトとテーマ）
第24回	卒業作品の創作（構想）
第25回	卒業作品の創作（モチーフ）
第26回	卒業作品の創作（構造）
第27回	卒業作品の創作（全体のスケッチ）
第28回	卒業作品の創作（全体のまとめ）
第29回	卒業作品の創作（仕上げ）
第30回	年間の振り返り・まとめ

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけではなく、予習・復習を含めて日常的に取り組むこと

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

適宜資料を配付する

科目名－クラス名

作曲Ⅱ①

曜日時限

実技

担当教員

梅北　直昭

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

クラシック、ポピュラーなど様々なジャンルの楽曲について知識を高め、それらの作曲・アレンジの技術の修得。加えて作曲理論や形式の理解をベースとして、演奏の主科実技の音楽表現に活かすための作曲・アレンジの知識を修得する。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

作曲面では、モチーフからメロディを作曲できるようになる。メロディに適切なハーモニーをつけることができるようになる。ピアノ曲、二重奏までの楽曲の作曲ができるようになる。理論面では、主科実技で演奏している楽曲に対して、作曲の視点から基本的なアナリーゼができるようになる。作曲に必要な理論と方法について理解を深めることができる。基本の楽式について理解できるようになる。アレンジ面では、詩とメロディとの関係が理解できるようになる。室内楽の楽器法について理解できるようになる。

授業展開と内容

第1回　作曲・アレンジについての概要

第2回　作曲・アレンジに必要な知識

第3回　モチーフとその役割について

第4回　メロディの組み立てとモチーフの展開

第5回　メロディーとハーモニー、コードの関係、伴奏の働きとその作り方

第6回　クラシックに学ぶハーモニーの作り方 - 古典派、ロマン派の音楽を例に

第7回　ポピュラーに学ぶハーモニーの作り方、コードネームの理解 - 洋楽、J-POPを例に

第8回　様々なハーモニーについて

第9回　リズムの原理

第10回　形式の種類

第11回　形式に沿った楽曲の組み立て方

第12回　ベーシックな形式の理解と作曲の実践（１部形式）

第13回　発展させた形式の理解と作曲の実践（２部形式）

第14回　さらに発展させた形式の理解と作曲の実践（３部形式）

第15回　前期のまとめ

第16回　転調の理解

第17回　転調を含む３部形式の作曲の実践

第18回　複合３部形式の理解

第19回　複合３部形式の作曲の実践

第20回　様々な形式の理解と分析

第21回　作曲・アレンジの実践（導入編） - ピアノ曲のスタイル

第22回　作曲・アレンジの実践（導入編） - ピアノ曲の創作

第23回　作曲・アレンジの実践（導入編） - 二重奏曲のスタイル

第24回　作曲・アレンジの実践（導入編） - 二重奏曲の創作

第25回　作曲・アレンジの実践（導入編） - 歌曲、ソングライティング（詩とメロディの関係）について。

第26回　年度末作品制作 - 曲の構想を考える

第27回　年度末作品制作 - 楽曲のスケッチ

第28回　年度末作品制作 - 楽曲の展開

第29回　年度末作品制作 - 仕上げ

第30回　まとめ

履修上の注意

課題および作曲はレッスン内だけでなく、予習・復習を含め日常的に取り組み、担当教員の指示に従うこと。レッスンでは、毎回、練習課題の実施を伴う。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

必要に応じて指示をその都度与える。

科目名－クラス名

作曲Ⅱ②

曜日時限

実技

担当教員

梅北　直昭

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

この授業は作曲を学ぶための科目であり、グループの形態で行われる実技レッスンである。作曲Ⅱ①で修得した知識と技術を高めることを目的とし、作曲理論や形式の理解をベースとして、各学生の能力に応じた作品を制作する。作品分析を学ぶことにより作曲法を理解し、個性ある作曲ができるようになる。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

作曲面では、ピアノ曲の自作自演ができるようになる。４重奏までの楽曲の作曲ができるようになる。歌曲が作曲できるようになる。理論面では、主科実技で演奏している楽曲に対して、作曲の視点から応用的なアナリーゼができるようになる。作曲に必要な理論と方法について理解したことを実践できるようになる。様々な楽式について理解できるようになる。アレンジ面では管楽器、弦楽器、打楽器のアレンジについて理解を深めることができる。

授業展開と内容

第1回　作曲・アレンジについての概要（応用編）

第2回　作曲・アレンジに必要な知識（応用編）

第3回　モチーフとその役割について（応用編）

第4回　メロディの組み立てとモチーフの展開（応用編）

第5回　メロディーとハーモニー、コードの関係、伴奏の働きとその作り方（応用編）

第6回　クラシックに学ぶハーモニーの作り方 - 古典派、ロマン派の音楽を例に（応用編）

第7回　ポピュラーに学ぶハーモニーの作り方、コードネームの理解 - 洋楽、J-POPを例に（応用編）

第8回　様々なハーモニーについて（応用編）

第9回　リズムの原理（応用編）

第10回　形式の種類（応用編）

第11回　形式に沿った楽曲の組み立て方（応用編）

第12回　形式の理解と作曲の実践（変奏曲）

第13回　発展させた形式の理解と作曲の実践（変奏曲）

第14回　さらに発展させた形式の理解と作曲の実践（変奏曲）

第15回　前期のまとめ

第16回　形式の理解と作曲の実践

第17回　発展させた形式の理解と作曲の実践

第18回　さらに発展させた形式の理解と作曲の実践

第19回　形式の理解と作曲の実践

第20回　発展させた形式の理解と作曲の実践

第21回　作曲・アレンジの実践（応用編） - ピアノ曲を室内楽編成にアレンジ

第22回　作曲・アレンジの実践（応用編） - 室内楽の概要

第23回　作曲・アレンジの実践（応用編） - 室内楽のアレンジ

第24回　作曲・アレンジの実践（応用編） - 二重奏曲～四重奏曲の創作

第25回　作曲・アレンジの実践（応用編） - 歌曲、ソングライティング（詩とメロディの関係）について

第26回　年度末作品制作 - 曲の構想を考える

第27回　年度末作品制作 - 楽曲のスケッチ

第28回　年度末作品制作 - 楽曲の展開

第29回　年度末作品制作 - 仕上げ

第30回　まとめ

履修上の注意

課題および作曲はレッスン内だけでなく、予習・復習を含め日常的に取り組み、担当教員の指示に従うこと。レッスンでは、毎回、練習課題の実施を伴う。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

必要に応じて指示をその都度与える。

科目名－クラス名

作曲Ⅱ④

曜日時限

実技

担当教員

梅北　直昭

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	4～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

この授業は作曲を学ぶための科目であり、グループの形態で行われる実技レッスンである。作曲Ⅱ③に引き続き、クラシック、ポピュラーなど様々なジャンルの楽曲について知識を高め、それらの作曲・アレンジの技術の修得。加えて作曲理論や形式の理解をベースとして、演奏の主科実技の音楽表現に活かすための作曲・アレンジの知識を修得するとともに、必要に応じてDTMについて学修する機会を設ける。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

作品分析・楽器法を学ぶことを通じて様々な作曲技法を理解し、多様なジャンル・編成の作曲ができるようになる。

授業展開と内容

第1回　楽曲分析と作曲技法（序論）

第2回　楽曲分析と作曲技法（導入）

第3回　楽曲分析と作曲技法（基本）

第4回　楽曲分析と作曲技法（応用）

第5回　楽曲分析と作曲技法（実践）

第6回　楽曲分析と作曲技法（レベルアップした実践）

第7回　楽曲分析と作曲技法（総合演習）

第8回　楽曲分析と作曲技法（レベルアップした総合演習）

第9回　楽器法と作曲技法（序論）

第10回　楽器法と作曲技法（導入）

第11回　楽器法と作曲技法（基本）

第12回　楽器法と作曲技法（応用）

第13回　楽器法と作曲技法（実践）

第14回　楽器法と作曲技法（レベルアップした実践）

第15回　楽器法と作曲技法（総括）

第16回　室内楽について　導入

第17回　室内楽について　発展

第18回　年度末提出作品の創作（曲の構想）導入

第19回　年度末提出作品の創作（曲の構想）発展

第20回　年度末提出作品の創作（モチーフ）導入

第21回　年度末提出作品の創作（モチーフ）発展

第22回　年度末提出作品の創作（構造）導入

第23回　年度末提出作品の創作（構造）発展

第24回　年度末提出作品の創作（全体のスケッチ）導入

第25回　年度末提出作品の創作（全体のスケッチ）発展

第26回　年度末提出作品の創作（全体のまとめ）導入

第27回　年度末提出作品の創作（全体のまとめ）発展

第28回　年度末提出作品の創作（仕上げ）

第29回　年度末提出作品の創作（総括）導入

第30回　年度末提出作品の創作（総括）発展

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけでなく、予習・復習を含め日常的に取り組み、担当教員の指示に従うこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

必要に応じて指示をその都度与える。

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2057　　教員名：梅北　直昭

１）評価結果に対する所見

作曲系の授業とソルフェージュ系の授業、および本年度からメディア授業の「ICT と音楽芸術」を担当した。評価結果を通じて、学生の実態や学修内容に即して、目標への道のりを明確にすることが重要であると感じた。教員は学生の目標達成のために、足りないものは何かを明らかにし、それを解決するためには何をすべきかを指し示す必要がある。時には、難しい取捨選択を迫られることもあると思うが、学生と教員が問題解決の方法を認識・共有することで、主体的・能動的な学修を進めることができると考える。教員としても新たな試みを絶やさず、授業を進化・展開していく必要があると感じた。

２）要望への対応・改善方策

「作曲編曲法」、「スコアリーディング」、「聴音・視唱ソルフェージュ」、「鍵盤ソルフェージュ」、「ミュージックセオリー」、「ポピュラー作曲編曲法」、「ICT と音楽芸術」を担当した。授業展開で大事なことは、学生が主体となった授業を展開することである。学生の考えていることや感じていることは様々であるが、常に学生の内面を刺激し、学修意欲を高めていけるような授業を心がけなければならない。学生の学びたい意欲を察し、そのタイミング逃すことなく、適切なアドバイスを行うよう心がけたい。学生の「上達したい」、「学びたい」という意欲を尊重し、それらをサポートし高めて行けるように対応していきたい。

３）今後の課題

学生が卒業後、現実的なキャリアを築くため、大学在学中に何をすべきかをサポートすることも教員の重要な仕事であるように思う。日々成長する技術や多様なニーズに対応するため、教員も新しい音楽や新たなスタイル・ジャンルについて常に学び、専門知識の継続的な更新が重要であると考える。加えて、学生が日々考えていることや学びたいことなどを、学生とコミュニケーションをとりながらサポートし、学生に幅広い視野とスキルを提供していきたい。

以　上